

I 令和 5 年度 教職員内部評価

1 学習指導について（独自項目「本をよく読んでいる」）

学習指導については、児童の評価はどの項目でも昨年度より上向きとなっており、高い水準である。校内研究による国語科の研究をはじめ、教員の授業準備や指導方法の工夫の積み重ねが形になって現れてきているといえる。また、教員による ICT 機器の活用方法もこなれてきた感がある。保護者の評価も、児童と同様に全ての項目において、およそ 10% 近く昨年度より高い結果となった。「黒板やプリントの工夫」「映像やタブレットの活用方法」については、数値的に改善の余地があるため、今後も模索していく。独自項目の「読書」については、児童も保護者も、昨年度を下回る結果となっている。保護者の評価については 3 年前のピークから 20% 程度落ち込んでいる。

内部評価においては、学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現について、授業中、どのような学習内容・学習場面でどのような対話をさせることが、学習の理解を深めることにつながるのかを模索していく必要もあるのではないかという意見が挙がった。次年度の校内研究において、「対話」についても視点を当てて研究を進めていくとともに、校内 OJT で学習会を設けていくことを確認した。授業における指導の工夫、教材の工夫については、80% 以上の教員が肯定的な評価をしている。次年度も校内 OJT を活用し、ベテランと若手が一緒に学ぶ場を設けることを確認した。また、読書についても 80% 以上が肯定的評価だった。学校運営委員会を中心とした保護者による読み聞かせの継続、「つまみぐい読書」の励行・実施、読書週間におけるおすすめの本の紹介等の働きかけが良かったか。次年度は、親子読書の励行も行い、家庭にも読書活動の啓発を行っていく方向で検討をしていくことになった。

2 生活指導について（独自項目「自分からあいさつができる」「外でよく遊んでいる」「先生や大人に対する適切な言葉づかい」）

どの項目においても、児童・保護者共に昨年度より高い評価となっている。中でも、学校のルールを考えて行動していると回答した児童が 95% と、昨年度より大幅に上がっている。今後も継続して指導をしていく。また、地域の評価項目である「交通ルールの遵守」については、経年変化で若干の上下はあるものの、高い水準で変化をしている。

独自項目「あいさつ」については、90% もの児童が「自分からあいさつしている」と回答しており、高い水準を維持している。過去 5 年間で一番高い数値となった。一方、保護者の評価は、経年変化を見る中で、落ち込んでいる。地域の回答では、昨年度より少し上向きであるが、65% 台となっている。また、「外でよく遊んでいる」児童は、昨年度より増えており、外遊びの励行や、教員が児童と一緒に遊ぶ等の成果が現れている。「先生や大人への適切な言葉づかい」については、評価が上向きであるため、

次年度も継続して指導していく。

内部評価においては、学校のルール指導について、90%弱の教員が丁寧に、そして組織的に指導していると回答している。ただし、一部のきまりの指導においては、職員間の温度差も話題に上ったため、4月の学期当初に職員で再確認する場を設けることを確認した。また、単に「だめだよ。」と指導するのではなく、どうしてだめなのか、丁寧に考えさせていくことを確認した。

独自項目のあいさつについては、85%の教員が肯定的に捉えている。次年度もあいさつキャンペーンを活用し、励行していく。一方、教員以外の大人（学生ボランティアや支援員さんなど）への態度や言葉使いが、時として大人に対しての礼儀に欠ける子もいることも課題として出た。親しみを込めて接することとお世話になっている方への礼儀との区別をきちんと指導をしていくこと、全員が見逃さずに同じように指導していくことを確認した。また、外遊びについては、80%以上の教員が肯定的な評価をしている。今年度は、児童集会において、全児童が校庭に集まり、鬼ごっこなどをする場面も設けてきた。一方、気候的な問題で、今年度の酷暑が継続すると予想されるため、熱中症を考慮して、エアコンのついた体育館の開放を検討していくことを確認した。来年度も、休み時間に外に出る気持ちよさを感じさせることができるよう、教師から働きかけていく。

3 学校行事について

学校行事については、児童も保護者も、「楽しい」「先生は児童の意欲を大切にしている」「達成感」の項目全てにおいて評価は高い。教職員が時間をかけて準備・指導をし、児童に達成感を味わせたいと願って教育活動にあたっている成果か。地域からの回答項目の「地域への配慮」についても概ね高いといえる。

内部評価においては、「学校行事は準備段階も含めて工夫・改善をすすめている」「児童を主体的に参加させている」両項目において、100%の肯定的な回答であった。次年度も、運動会や学芸会をはじめとした行事の指導、保護者や地域への発信、連携を含め、丁寧に準備や指導をしていく。

4 キャリア教育について

「目標をもち、その実現に向けて努力をしている」設問に対する児童の評価は昨年度同様、おおむね高いと言える。一方、保護者の評価は昨年と同様肯定的な数値は高いとは言えないが、学年ごとの回答を見ると、「わからない」と回答をしている保護者が多数いることがわかる。学校では、学期ごと、各行事ごとにめあてをもたせ、振り返りをする機会を設けてているが、こうした取り組みを積極的に保護者に発信していく必要があるか。「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」項目に対する児童の自己評価は、肯定的な評価が60%超となっており、高いとはいえない。保護者については、上記同様、「わからない」と回答する割合が非常に高く、1年生においては50%、他学年も20%程度となっているものの、その層を差し引いても、肯定的な評価は高いとはいえない。

内部評価においては、キャリア教育の充実について、全教員が肯定的に回答をしている。6年生の職業に関する学習の実施、校内研究における「探究的な学び」の研究、大きな行事の際に、他学年の頑張りを

見た感想を手紙で交流するなどの取り組みをしてきた。また、学期ごとに、目当てを立て、終わりに振り返りをさせる活動を全学年で実施し、自分自身の頑張りに向き合う時間も設けた。こうした取り組みの手応えが評価に結びついたと考えられる。児童の評価と教員の高い評価と、保護者の評価とずれがあるため、上記の通り、学校便り、保護者会等で発信をしていく。

5 先生のことについて

児童の評価では、「先生たちに相談できる」「先生たちは丁寧に指導してくれる」両項目において、経年変化をたどると上向きになっていることがわかる。保護者の肯定的な評価も、昨年度よりだいぶ上向きとなっている。校内研究において、児童が「自分とのつながりを見いだせる」ことに重点を置いて、指導方法を模索した成果の一端が表れていると言えるか。今後も、学習指導・生活指導を問わず、児童個々の意見、思いを大切に指導をしていきたい。

内部評価においては、学習指導、生活指導については、上記1, 2の通りである。保護者との連携・連絡については、全教員の回答が肯定的なものであった。電話や連絡帳を活用し連絡をこまめに行っているという意見、授業へボランティアとして来ていただき、一緒に子どもを見守っていただく場を設けたことなども高い評価につながったか。次年度も、公務員として、教職員として研鑽を重ねていく。

6 全般について（独自項目「武蔵丘小学校が好きである」）

児童も保護者も、「学校生活が楽しい」という項目での評価は高い。児童の「武蔵丘小が好きである」項目に対する評価が高いことと結びつく。「家庭学習の定着」という点では、児童は70%が肯定的に捉えているが保護者の評価は60%台となっており、経年変化を辿ると徐々に低くなっている。「学び舎との交流」については、児童の肯定的な評価は非常に低い。ただし、中学校も小学校も限られた時間の中で活動となるため、今後も6年生を中心に中学校生活に展望をもたせることができるような交流の仕方を継続していくのが良いか。一方で保護者の評価は大幅に上がっている。「学校が好き」という項目に対しては、児童の評価はおおむね高いと言えるが、保護者の「本校の教育活動に満足している」は昨年度より20%も低下している。各行事ごとのアンケートなどに目を向け、保護者の声を吸い上げながら次年度の計画を立てていく必要があるか。

内部評価においては、前に記した通り、行事や学習への指導などの充実を図っているという評価である。家庭学習の指導も丁寧に行っているという意見も挙がったが、一部、ICTを活用した家庭学習の投げかけがあまり行われていないという声も挙がった。区が奨励している「キュービナ」というドリル学習のアプリがあるが、使用率は高くない。やみくもにタブレットを活用させるのではなく、紙を活用した学習の良さ、ICTを活用する良さを考慮しつつ、家庭学習が確実に定着するよう指導していくことを確認した。また、「児童の創意工夫を生かした活動をすすめる、児童の自主的・実践的な態度を育成している。」という項目においても、全教員が肯定的に回答しており、児童が充実した学校生活を送ることにつながっていると考えている。

7 学校からの情報提供について

保護者、地域共に評価はおおむね高いと言える。学校便り、ホームページの活用、行事等の案内の配布文書、すぐる等の活用で情報を発信することができたといえるか。一方で、学び舎の区立中学の情報提供が昨年同様十分でないという声が多い。昨年度、「コロナ前においては、6年生を中心に中学生との交流があったり、教職員も授業を参観しに行ったりする機会も多く、また行事の度に中学生がボランティアとして参加する等、やりとりがあったからこそ様々な情報を提供できた。」と報告をしたが、今年度も、多少は交流の機会は増えたものの、コロナ前のような活発な活動がされたとはいえないため、今後も動向を見て判断していく。

内部評価においては、「家庭教育の充実に向け、必要な情報を提供している」の項目には全教員が肯定的な回答をしている。「学校だより、学年だよりを通して保護者や地域に必要な情報を積極的に公開している」「道徳地区公開講座の充実」については、90%弱と、高い評価である。次年度も、保護者会や学校公開、学校だより、学年だよりを活用し、学校の取り組み、教師の思いを発信していく。

一方、学び舎の取り組みについての情報提供は、学舎要覧の作成・配布、6年生と中学生の交流等、行っていることを発信はしているが、不十分か。

8 地域との連携について

「地域の人材や施設の活用」については、昨年度より保護者の評価が上がり、令和元年から令和三年までの水準に戻りつつある。新型コロナの五類移行以降、様々な制限が緩和され、児童の学習や活動が実施できるようになってきたことが大きい。保護者に向けた「学校は地域の活動で協力的か」「本校は地域に情報を提供しているか」という項目については、「わからない」という回答が多い。地域に向けた「学校協議会や合同学校協議会の役割」「学校運営委員会の活動の周知と役割」については、昨年度より低くはなっているものの、「わからない」が20%を占めており、否定的な評価が多いわけではない。

内部評価においては、学校運営委員の取り組みが非常に充実しており、読み聞かせやムサシスペシャルイベント、漢字検定など、地域が子どもたちのために力を注いでくださっているという意見、また、学校コーディネーターの子どもたちを思った精力的な取り組みのもと、様々なゲストティーチャーから体験的な学習をさせていただいたという意見が挙がった。「地域の人材の活用」については、全教員が肯定的な評価をしている。

学校協議会の充実については、80%が肯定的な評価である。コロナ五類移行に伴い、次年度以降の充実した取り組みを模索していくことを確認した。地域への情報提供については、90%弱が肯定的な評価である。今後も副校長を中心に、学校の取り組みを積極的に公開・発信していく。

9 学校の安全性について

学校の安全性に対する評価は保護者、地域共におおむね高いと言える。保護者の「学校は、安全な学校

作りを進めている」項目については、肯定的な回答が75%と低くはないものの、経年変化を辿ると下がってきている。災害や犯罪に対する意識が高くなっている昨今、必要なことを洗い出し、次年度の計画を立てていきたい。

内部評価においては、「事故、災害に迅速に対応する体制を整備し、対応している」「危機管理マニュアルの活用」「通学路の安全点検」については100%、「犯罪被害防止の取り組み」も90%以上の肯定的な評価である。次年度も今年度と同様、学校の設備の点検を月ごとに行っていくこと、より実践的な避難訓練を実施していくことを確認した。

10 学校運営について

保護者、地域共におおむねの評価は得ていると言える。校長着任後2年目となり、経営方針が明確に示され、教職員が教育活動に向かっていると言えるか。

内部評価においては、「校長の経営方針が明確にしめされている」について、70%超の肯定的な評価であった。教職員の意見に寄り添い、尊重してもらっているという声も挙がった。また、「問題意識や悩みを話し合える職場である」という設問には全教員が肯定的な回答をしている。次年度も、校長の経営方針のもと、「チームムサシ」でより良い学校を創っていく。

II 令和5年度 重点目標に対する内部評価での確認事項

1 人権尊重教育と生命尊重教育の徹底を図っている。

「とても思う」「思う」が大部分を占めており、おおむね評価は高いと言える。クラスや学年全体の中で、模範となる言動を褒めたり、あいさつ指導や返事の指導の励行を積み上げてきたことが良い評価につながったか。一方で、前にも記した通り、若い教職員や学習ボランティアに対する態度がよくない場面を見かけるなどの声も挙がり、教職員で共通理解をし、足並みを揃えた指導をしていくことを確認した。

2 自己実現や自己肯定感を高めるキャリア・未来デザイン教育を推進している。

全教員が肯定的な評価をしている。「児童一人一人に応じた働きかけが十分にされている」「児童の頑張りを褒め、成長を認める声かけをしている」という意見も挙がった。各行事においては、昨年度より継続し、他学年の頑張りを認める手紙を作成するなど取り組みを行うことで、上級生になるとこんなことができるようになるのだ、という憧れや、下学年の頑張りを認める中で、自己の成長に気付く視点をもつことができたといえる。今後もこれまで同様、子どもが自己の可能性に気付き、自己実現できるよう、指導の工夫を図っていく。

3 思いやりの気持ちと豊かな人間性の育成を図っている。

高い評価である。昨年度まで校内研究で取り組んだ道徳授業の充実が根付いていることはもちろん、コロナの制限が解除され、日々の学習指導・生活指導の中で、児童が互いに対話をし、相手の意見を受け入れたり、共感・反対するなど他者と関わる場面を取り入れることができるようになったことも大きいと思われる。今後も重点的に指導にあたる。

4 学びの基礎を徹底し、個別の教育ニーズに応じた教育を実践している。

おおむね高い評価が多いが、「どちらかといえばできていない」と回答する職員もいた。一斉に多数の児童を指導する中で、個別対応が必要な児童が多いと、なかなか指導の徹底を図ることが難しいという声が挙がった。一方で、「話を聞く姿勢を大切にし、徹底している」など、学習規律に関する具体的な意見も出た。次年度は、その子がその子らしく、達成感や充実感を感じられるように授業の改善を図っていくこと、学力調査の結果をより積極的に活用していくことを確認した。

5 「主体的・対話的で深い学び」の実現に努めている。

評価が「よくできている」「できている」「もう少し」「できていない」「わからない」に均一に分かれた。肯定的な意見としては、「児童に自己決定をさせる場面をポイントを絞って取り入れて、主体性を育てている」という意見が出た一方で、「授業における学びの場面で、教師がどんな対話をさせるべきか、具体的に考えたい」という意見もでるなど、授業づくりに試行錯誤している教員もいる。次年度は、校内研究で対話的な学習についても深めていくこと、校内OJTで学ぶ場を作っていくことなどを確認した。

6 健康・安全教育の充実を図っている。Ⅰの2・9参照

7 地域に根差した教育を推進している。Ⅰの7・8参照